

整理番号	23-19	事務事業名	(健康づくり事業) 元気フェスティバル(元気広場)	作成部署	保健福祉部健康管理課	電話	内線808	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	上村弘志	課長職名	細川和夫	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H6	根拠法令等	健康増進法					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	健康知識の普及啓蒙、健康づくりのきっかけづくりのため、H6以前は、消費生活展と合同の「健康フェア」を開催していた。さらに効果を高めるため、健康づくりとスポーツ事業を一緒にの会場において行うこととした。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	健康と医療	(第1節)
	施策	健康づくりの推進	(第1施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市民	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	参加をきっかけに、市民の健康づくりの意識が高まること。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(補助金等の場合は団体等の活動内容)	16年度まで	カーニバル全体の事務局は教育委員会が担当し、健康管理課は「健康広場」コーナーを担当してきた。市民に知らせたいこと、関心が高いテーマを選定し、栄養・運動・歯科各コーナー、骨密度検診、体脂肪測定等を実施している。15年度は元気出すカーニバル10周年記念イベントとして、北海道健康まつりと共催し、多くの市民の参加を得た。16年度からは、地域の総合イベントとして取り組み(名称:元気フェスティバルinきたひろしま2004)生涯学習分野、保健、福祉ボランティア、スポーツ、消費者団体など60を超える参加団体となっている。当課は、健康コーナーと、健康関連団体の連絡調整の役割を担っている。
		17年度	「元気フェスティバルinきたひろしま2005」に、昨年と同様の役割で参画。骨密度検診コーナーは廃止。(別日に実施)

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	280	280	172	170
	合計	280	280	172	170
人件費(概算)	人数(年間)	0.31	0.23	0.23	0.23
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	2,790	2,070	2,070	2,070
総事業費 +		3,070	2,350	2,242	2,240

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	健康関連コーナー参加者数	1800人	2400人	2400人	2400人
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	目標に対する参加率 (目標参加者数)	180% (1000人)	480% (500人)	100% (2400人)	100% (2400人)
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	参加者1人当りコスト (総事業費÷参加者数)	1700円	980円	935円	934円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	健康イベントはほとんどの市町村で実施しているが、当市のように健康づくりイベントとスポーツイベントを同じ会場内において実施している事例は道内では少ない。16年度からはさらに多分野が参画し、地域の総合イベントとなっている。
---------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	16年度から、市民団体が多数参画して実施できている。行政は、コーナーを持つとともに、事務局や調整役の役割も持っている。市民協働を実現している。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市民に健康づくりの必要性の啓発と健康づくりに取り組むきっかけづくりを行うという目的は適切である	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	意識啓発の方法としてはおおむね適切であるが、関心度など社会趨勢を見極めながら、さらに工夫をして取り組む。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	不特定多数の市民を対象にしている事業の性格から、受益者負担は該当しない。検診など、個別の利益が大きいものについては、受益者負担を考える。16年度まで実施していた一人500円負担の骨密度検診は、17年度から廃止。(別日実施)	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	目標としている参加率は達成しており、PR効果はある。参加者の年齢、参加動機、初参加率などの分析を行い、ニーズに合った事業内容の検討が必要である。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	他団体とのタイアップ開催、ボランティアの導入など工夫して行っているため、現行の主催のままであるならば、十分効率的。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	数多くの市民が一同に参集し健康づくりについての意識の高揚を図る目的を十分に達成している。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	16年度は、生涯学習分野、保健、福祉ボランティア、スポーツ、消費者団体など60を超える団体の参加による総合イベント的性格の事業となり、多くの参加を得た。 今後、団体参加者アンケートを継続して実施するなどして参加者のニーズを捉え、事業内容がマンネリ化しないよう工夫していく。